

東関東自動車道
下小野第二高架橋耐震補強工事

設 計 図
【海老川橋（上下線）】

令和 7 年 2 月

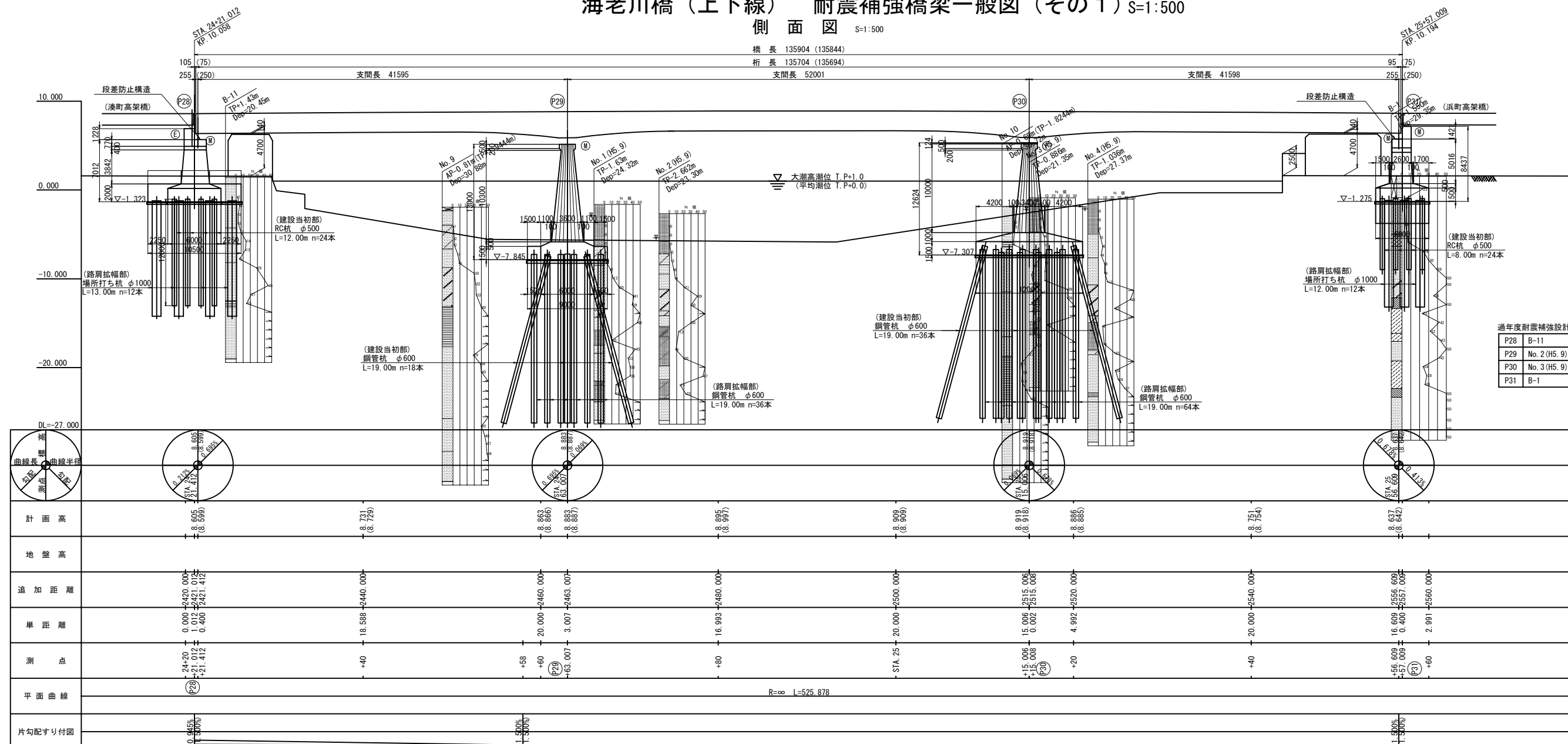
東日本高速道路株式会社
関東支社 千葉管理事務所

目 次

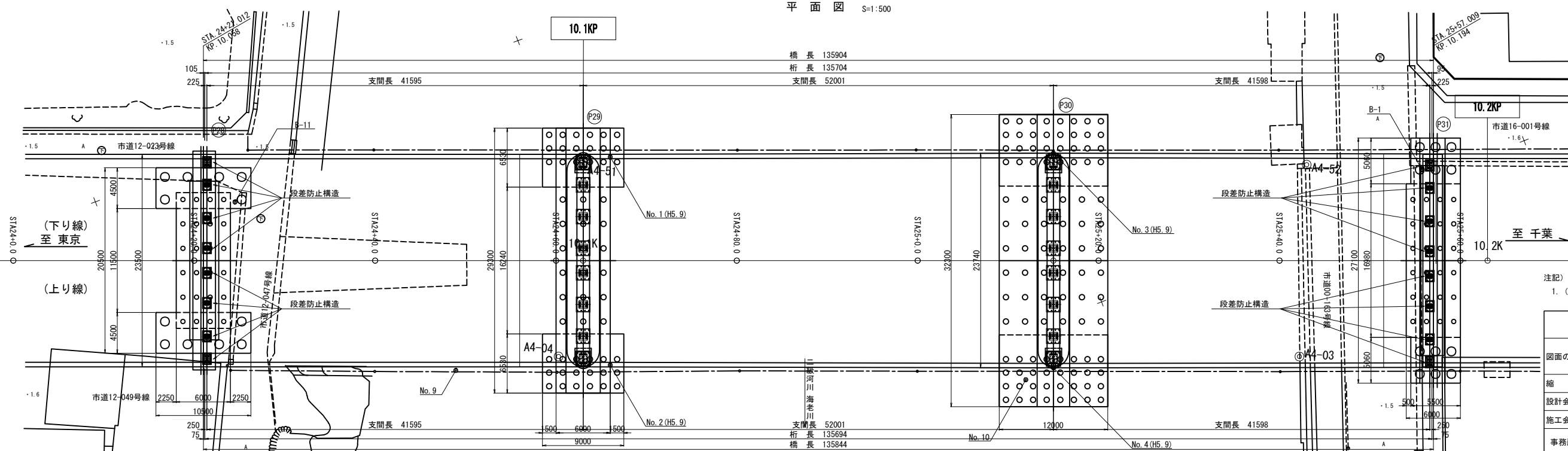
[illegible]

海老川橋（上下線） 耐震補強橋梁一般図（その１）S=1:500

側面図 $S=1:500$



平面图 S=1:500

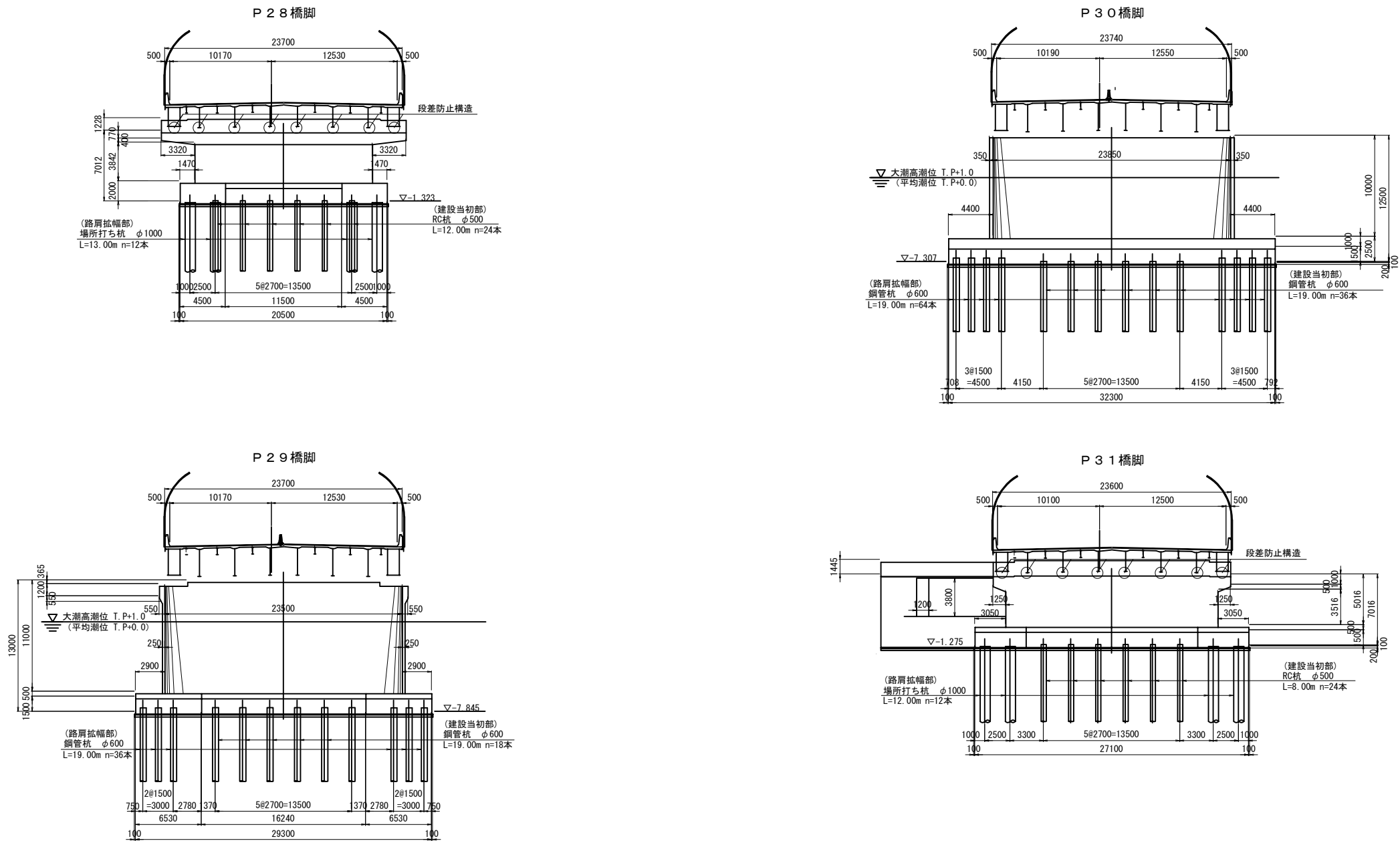


注記)
1. () 内は上り線を示す。

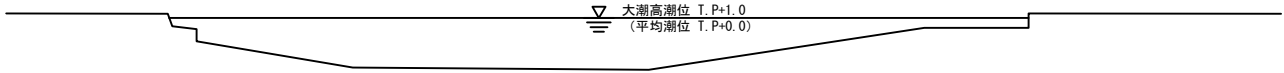
東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川橋（下線線） 耐震補強橋梁一般図（その１）			
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 9	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社			
事務所名	関東支社 千葉管理事務所			

海老川橋（上下線） 耐震補強橋梁一般図（その2）S=1:500

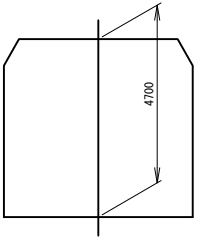
断面図 S=1:500



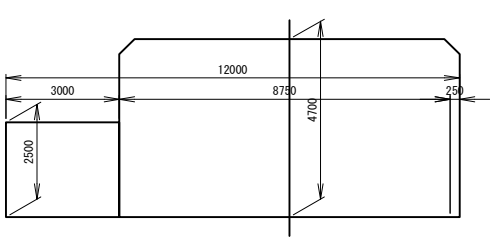
交差条件
2級河川 海老川 S=1:1000



市道12-047号線 S=1:200



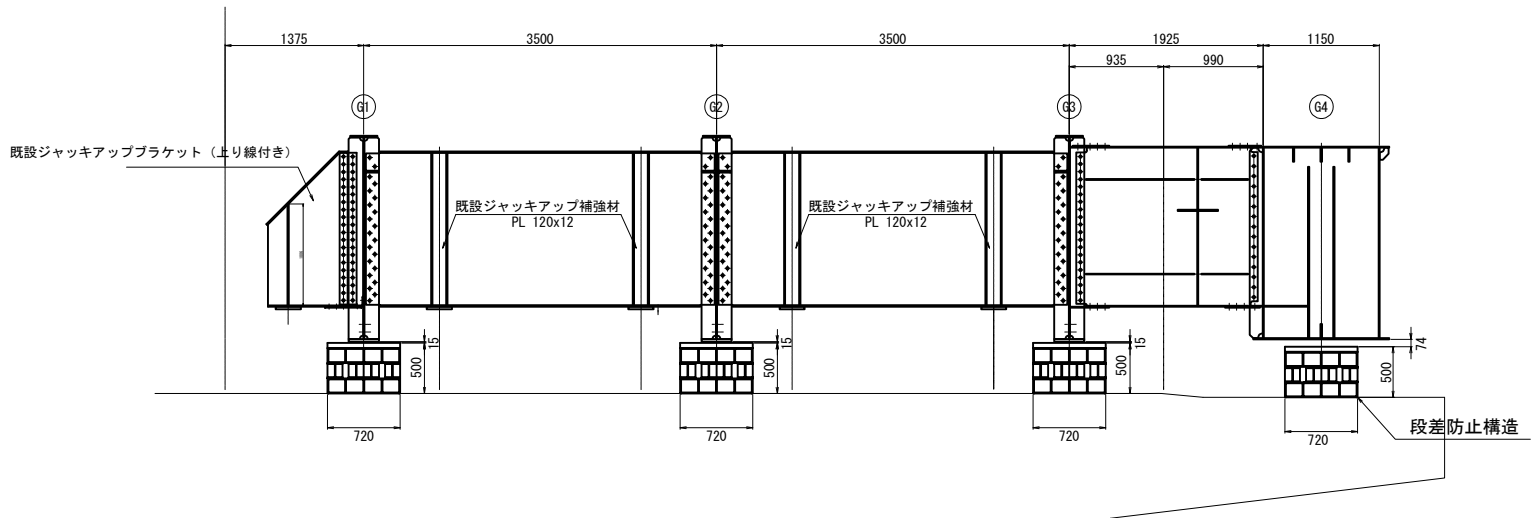
市道00-163号線 S=1:200



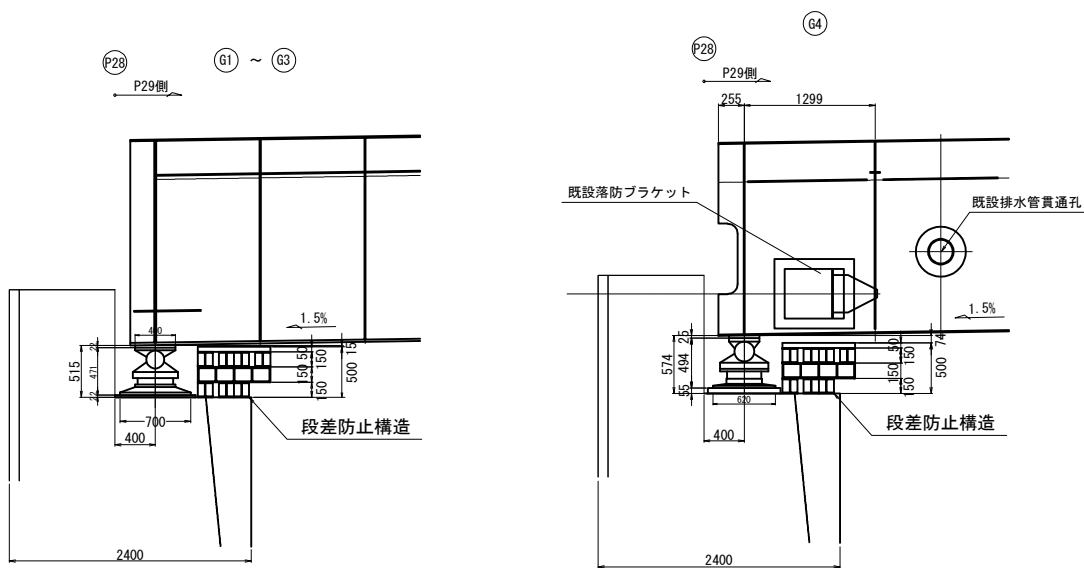
東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川橋（上下線） 耐震補強橋梁一般図（その２）			
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 9	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

(配置図)

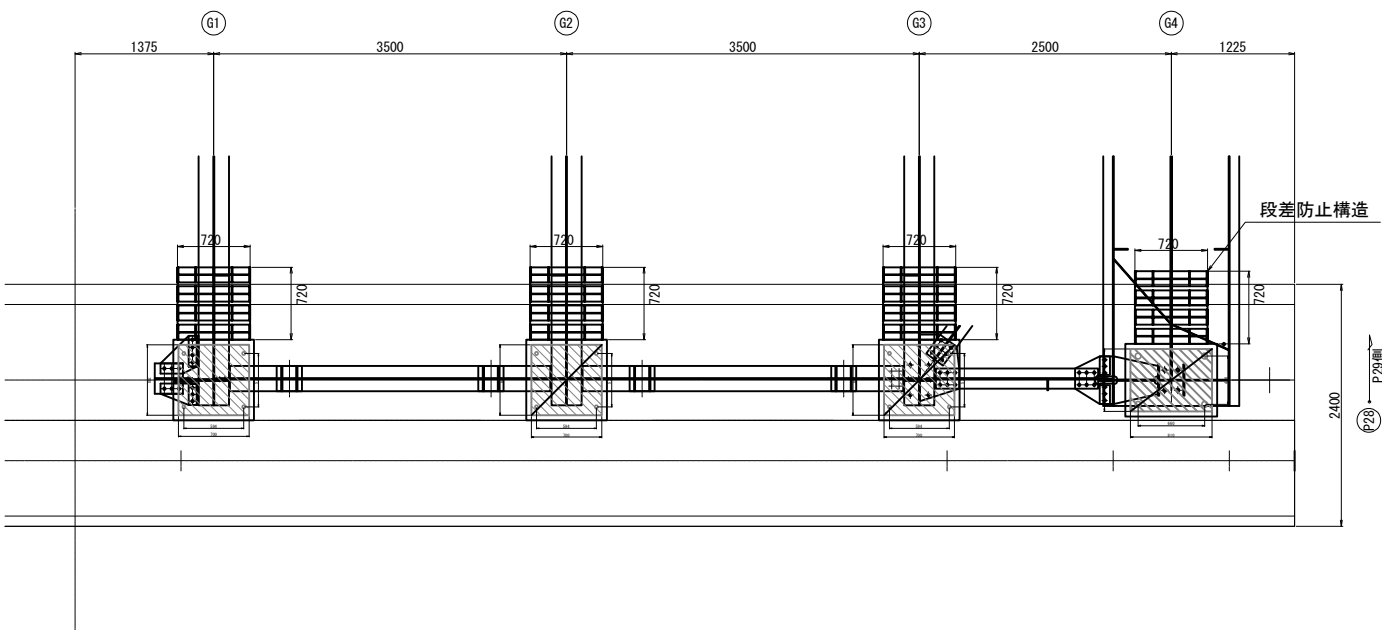
正面図



側面図

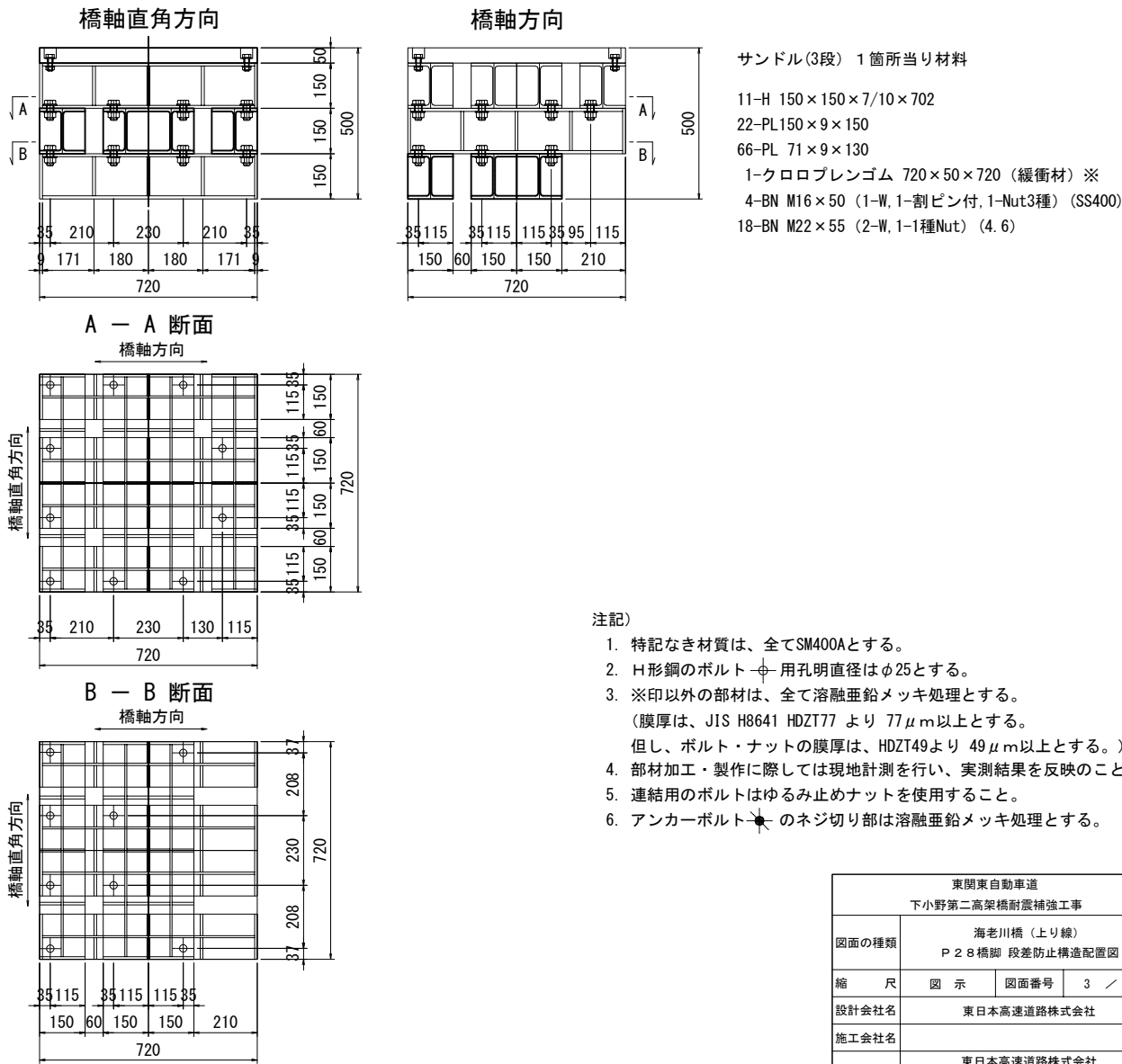


平面図

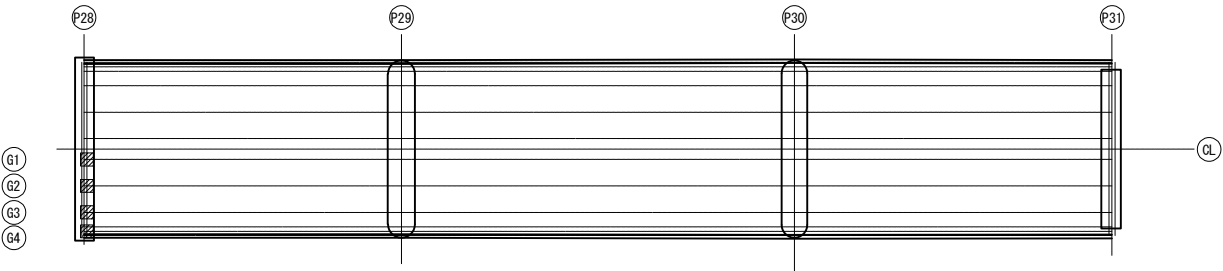


段差防止構造（サンドル材）詳細図

S=1:30



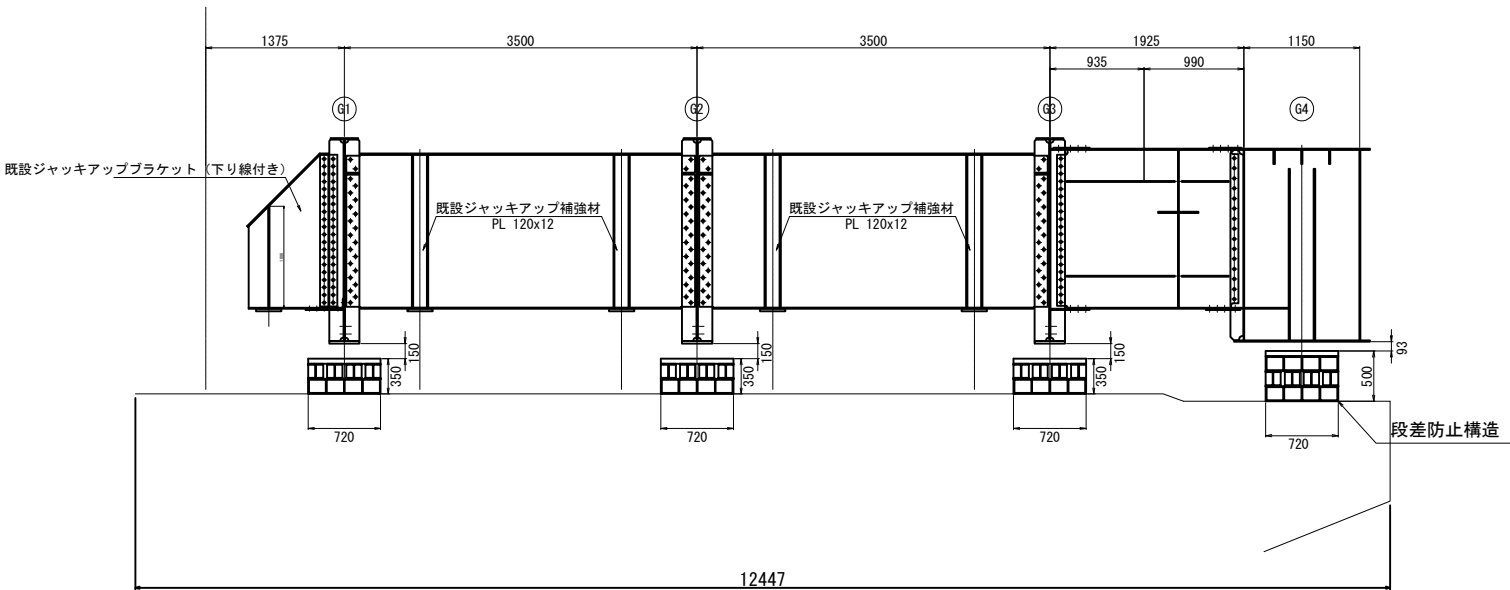
配置図 S=1:1000



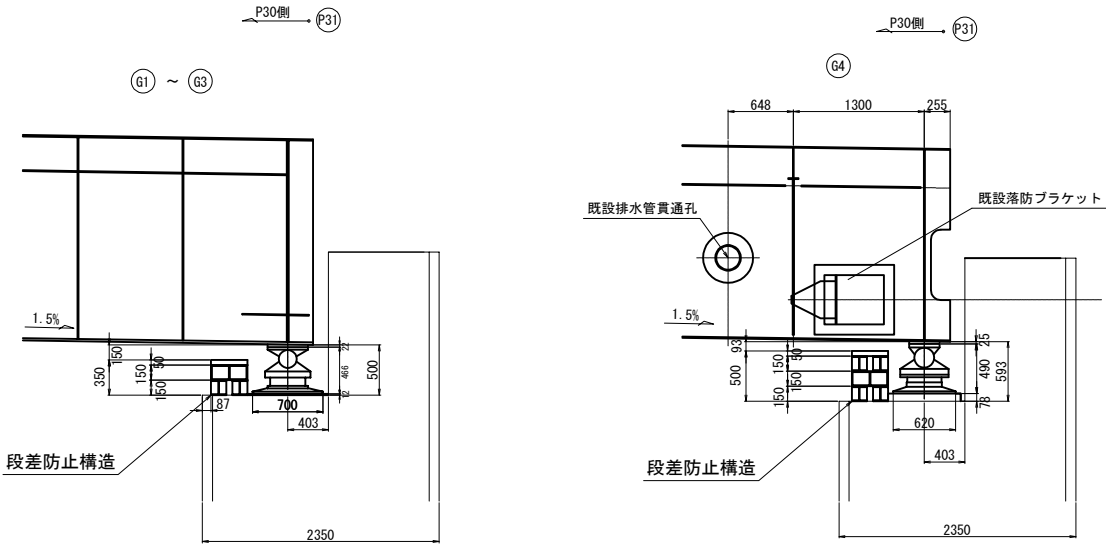
東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川橋（上り線） P 2 8 橋脚 段差防止構造配置図			
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 9	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社			
事務所名	関東支社 千葉管理事務所			

(配置図)

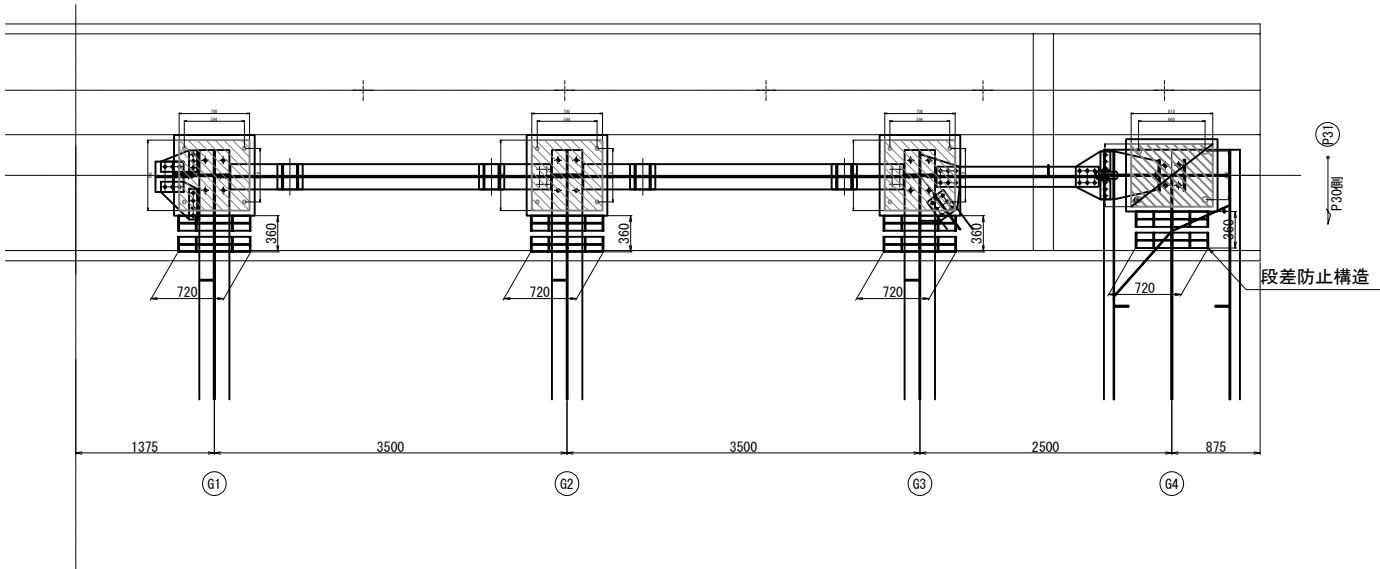
正面図



側面図

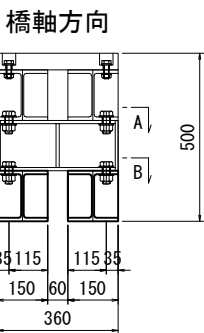
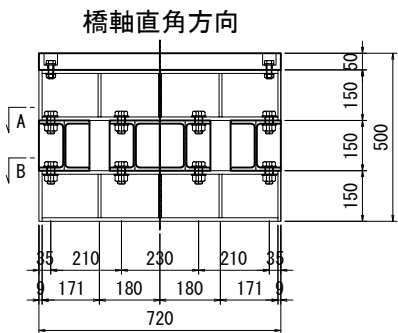


平面図



段差防止構造（サンドル材）詳細図

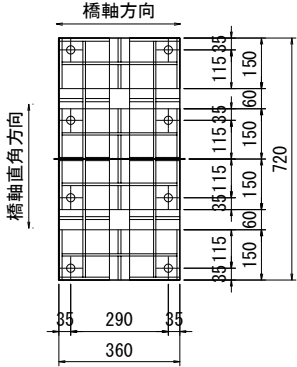
S=1:30



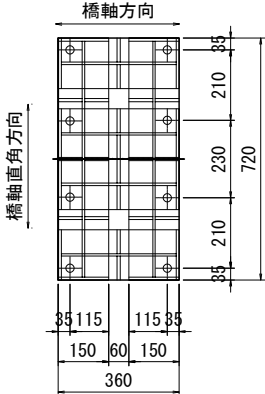
サンドル(3段) 1箇所当り材料

- 4-H 150×150×7/10×342
- 4-H 150×150×7/10×702
- 16-PL150×9×150
- 32-PL 71×9×130
- 1-クロロブレンゴム 360×50×720 (緩衝材) ※
- 4-BN M16×50 (1-W, 1-割ピン付, 1-Nut3種) (SS400)
- 16-BN M22×55 (2-W, 1-1種Nut) (4. 6)

A - A 断面



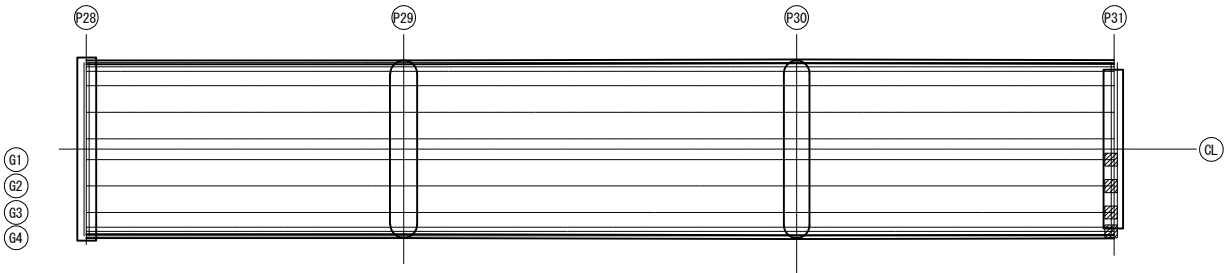
B - B 断面



サンドル(2段) 1箇所当り材料

- 4-H 150×150×7/10×342
- 2-H 150×150×7/10×702
- 12-PL150×9×150
- 20-PL 71×9×130
- 1-クロロブレンゴム 360×50×720 (緩衝材) ※
- 4-BN M16×50 (1-W, 1-割ピン付, 1-Nut3種) (SS400)
- 8-BN M22×55 (2-W, 1-1種Nut) (4. 6)

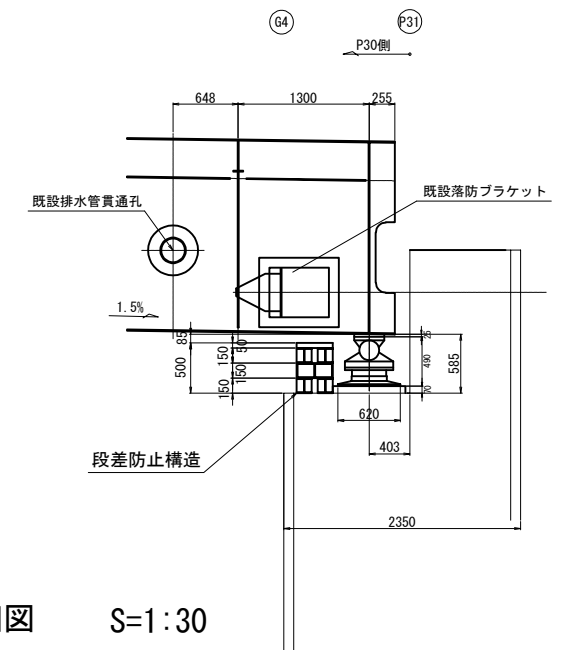
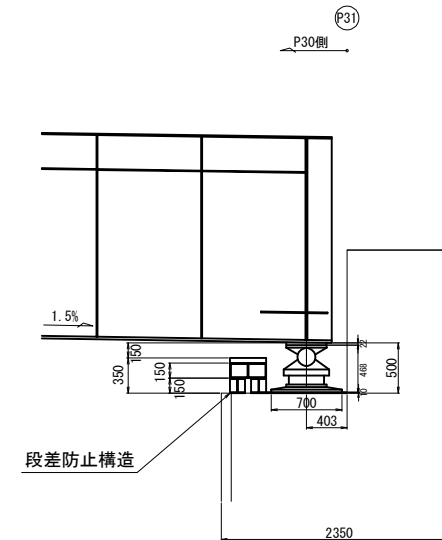
配置図 S=1:1000



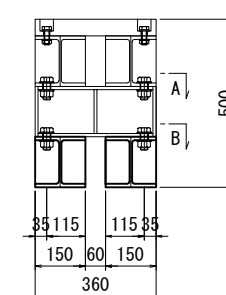
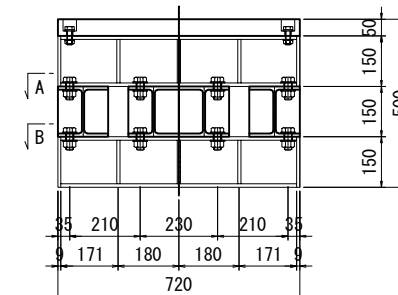
注記)

- 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
- H形鋼のボルト 用孔明直径はφ25とする。
- ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77 より 77μm以上とする。
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZT49より 49μm以上とする。)
- 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
- 連結用のボルトはゆるみ止めナットを使用すること。
- アンカーボルト のネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。

東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川橋（上り線） P 3 1 橋脚 段差防止構造配置図			
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 9	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

$$\textcircled{\text{G1}} \sim \textcircled{\text{G3}}$$


橋軸方向



4-H 150×150×7/10×342
4-H 150×150×7/10×702
16-PL 150×9×150
32-PL 71×9×130
1-クロロブレンゴム 360×50×720（緩衝材）※
4-BN M16×50（1-W, 1-割ピン付, 1-Nut3種）（SS400）
16-BN M22×55（2-W, 1-1種Nut）（4.6）

棉軸直角方向



35 290 35

360

35 115 150 150 115 150 115

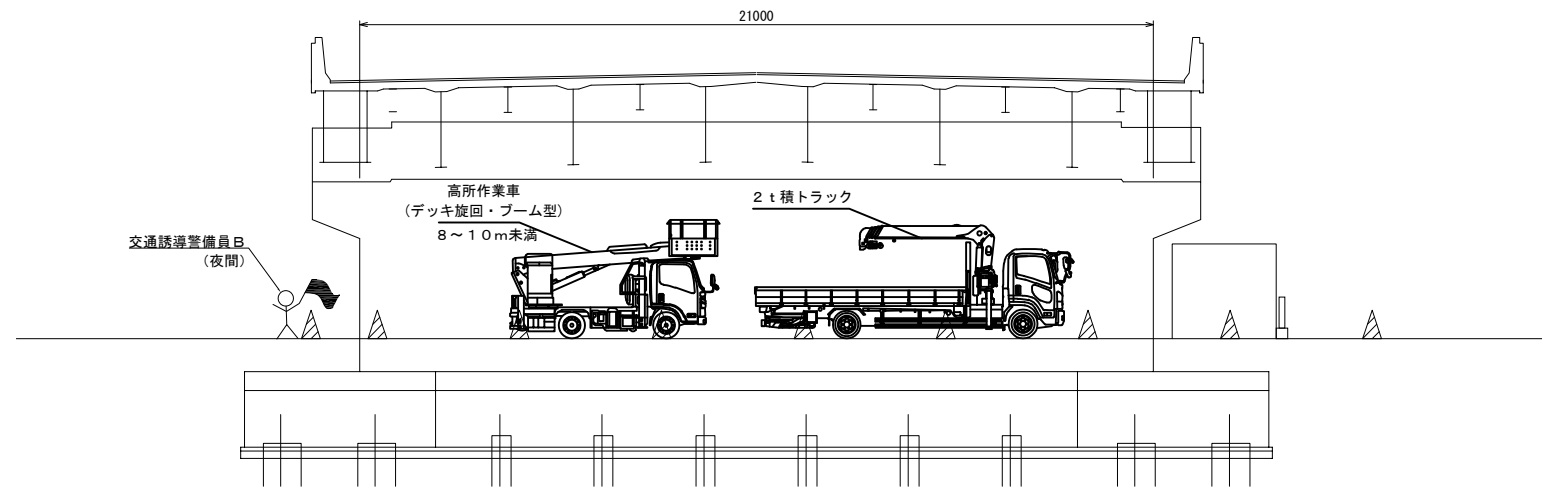
700

4-H 150×150×7/10×342
2-H 150×150×7/10×702
12-PL 150×9×150
20-PL 71×9×130
1-ククロブレンゴム 360×50×720（緩衝材）※
4-BN M16×50（1-W, 1-割ピン付, 1-Nut3種）（SS400）
8-BN M22×55（2-W, 1-1種Nut）（4.6）

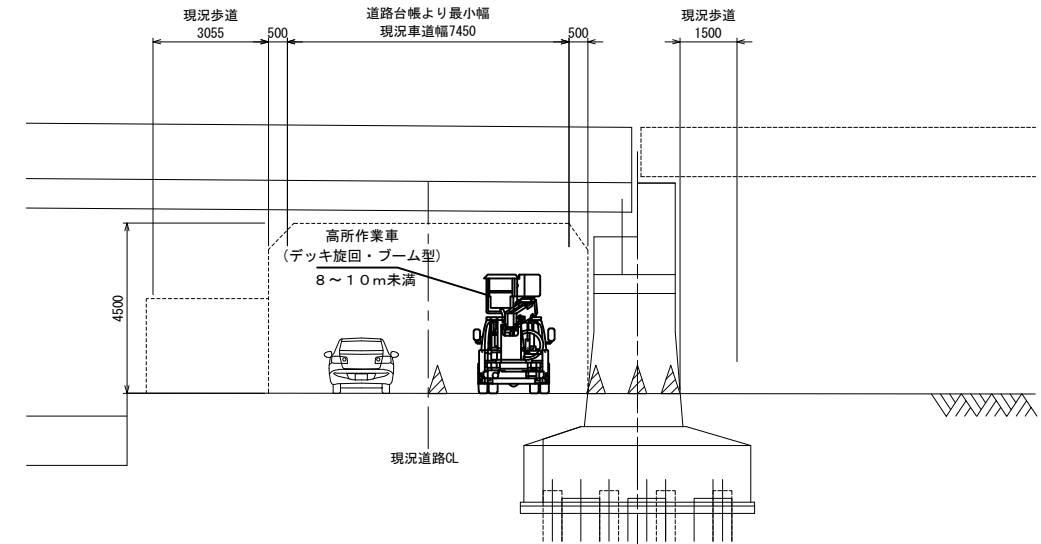
1. 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
2. H形鋼のボルト  の用孔明直径はφ25とする。
3. ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77 より $77\mu\text{m}$ 以上とする。
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZT49より $49\mu\text{m}$ 以上とする。)
4. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
5. 連結用のボルトはゆるみ止めナットを使用すること。
6. アンカーボルト  のネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。

東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	海老川橋（より線） P 3 1 橋脚 段差防止橋端配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 9
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 千葉管理事務所		

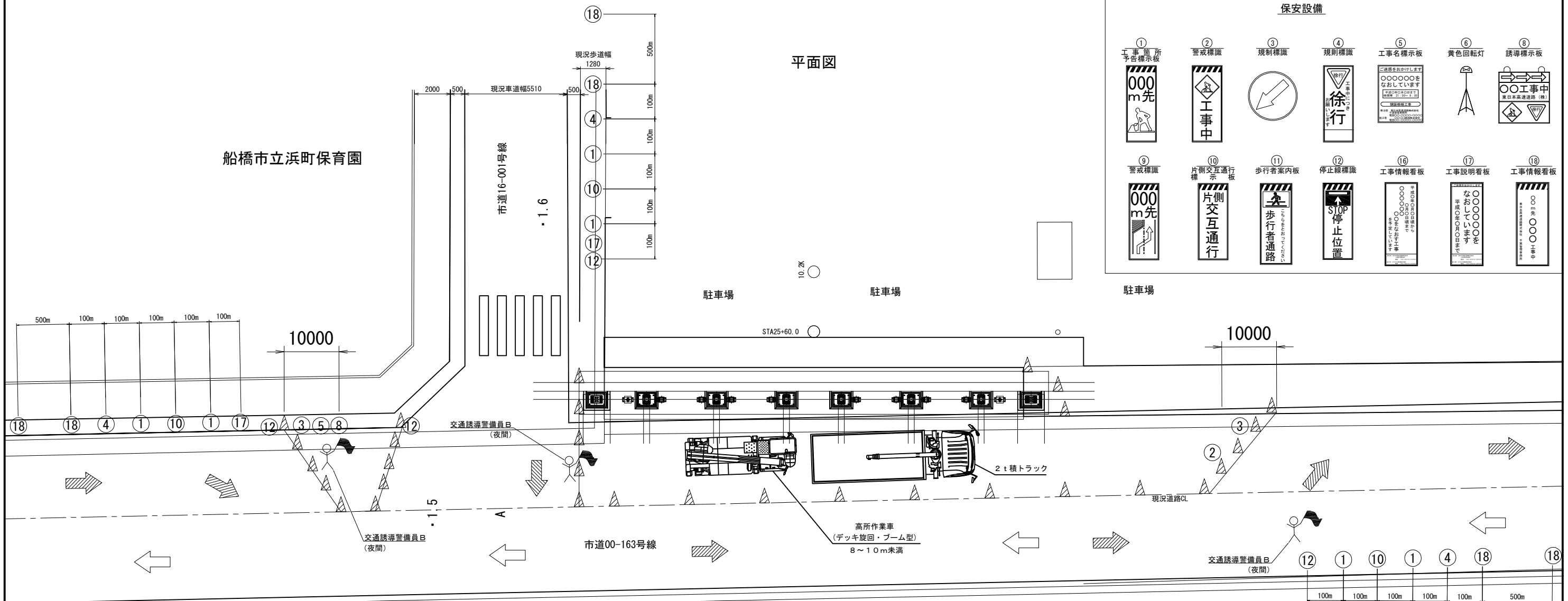
正面図



側面図



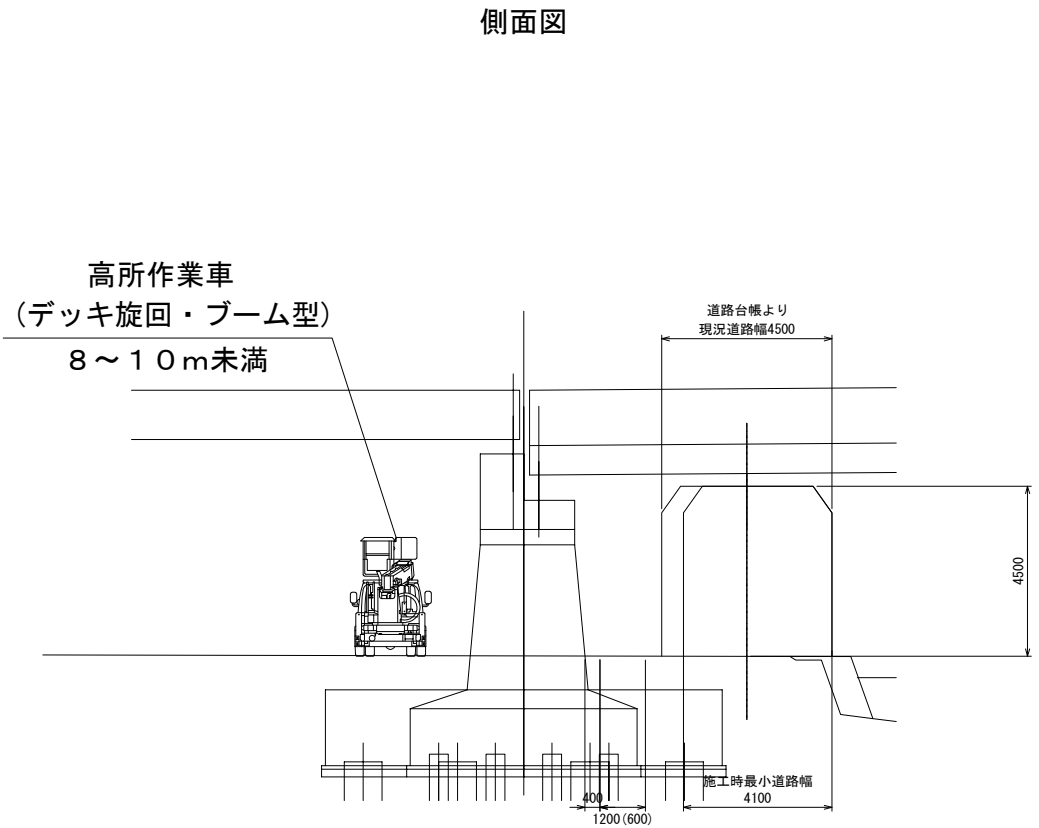
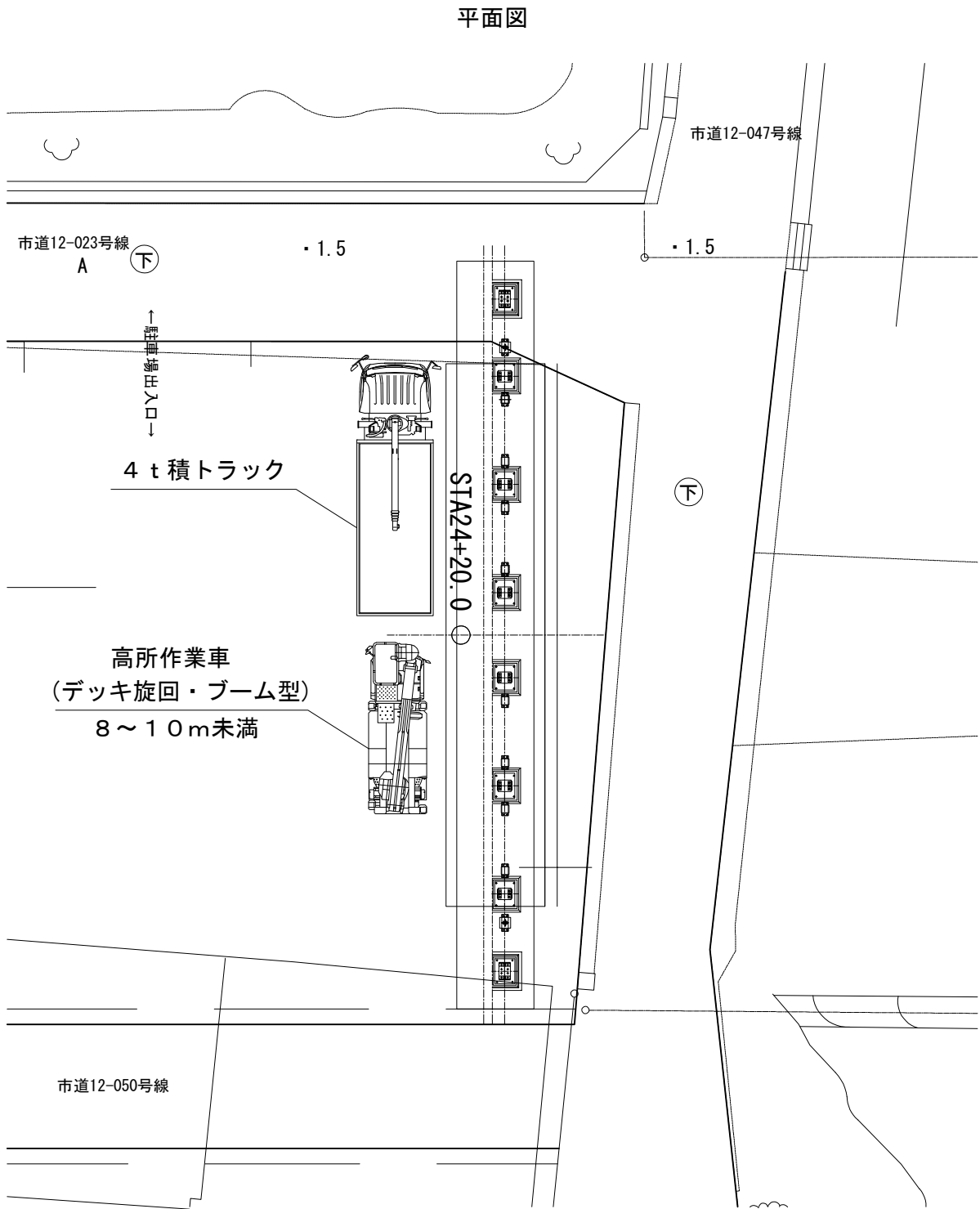
平面図



保安設備



東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	海老川橋（上下線）P 3 1 橋脚 交通規制図（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	7 / 9
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 千葉管理事務所		

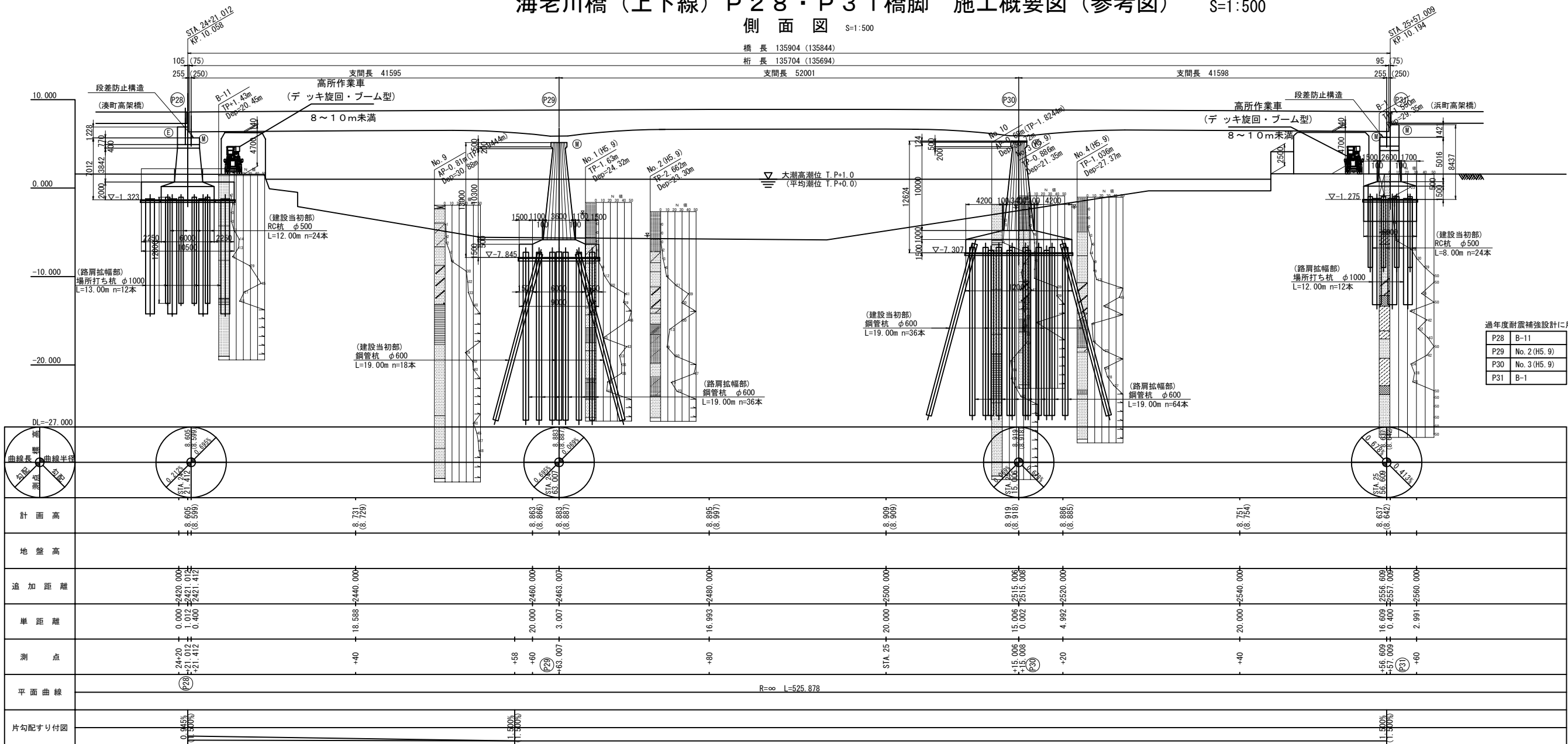


東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	海老川橋（上下線）P 2 8 橋脚 施工概要図（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 9
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所		

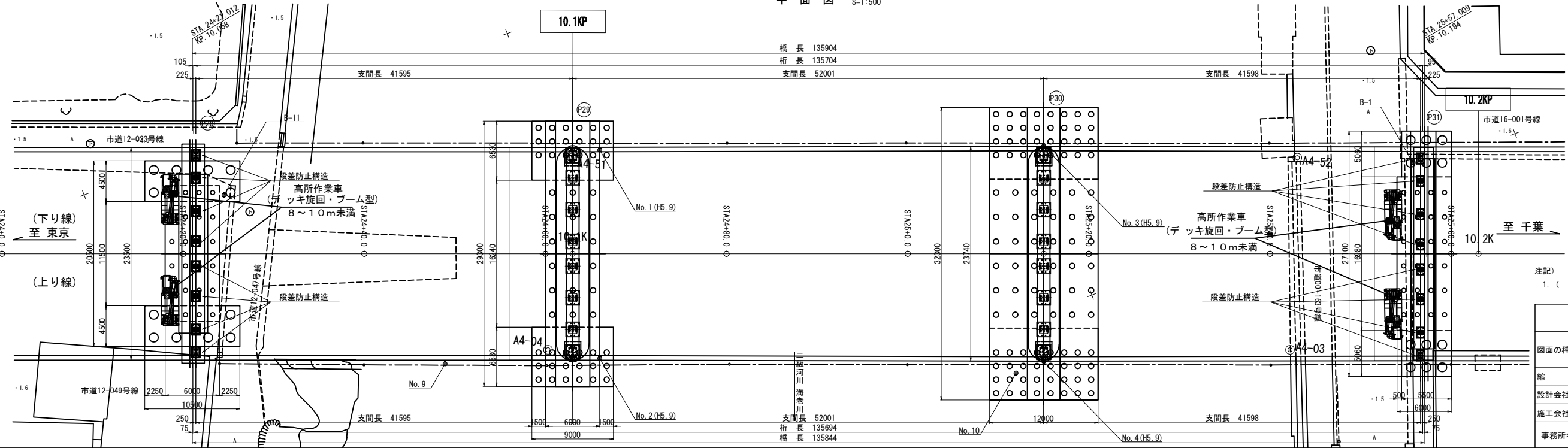
海老川橋（上下線）P28・P31橋脚 施工概要図（参考図）

S=1:500

側面図 S=1:500



平面図 S=1:500



注記)
1. () 内は上り線を示す。

東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	海老川橋（上下線）P28・P31橋脚 施工概要図（参考図）		
縮尺	図示	図面番号	9 / 9
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 千葉管理事務所		